

ぼうとうちんじゆつようし
冒頭陳述要旨

殺人未遂 宮本武蔵

第1 ^{しんじよう} 身上・経歴

1. 出生地 ^{みまさか} 岡山県美作市。
2. 職歴等 平成21年山口県立下関高校を卒業後、山口県で漁師をしている。
3. 家族関係 単身。兄弟はいない。
4. 前科関係 なし

第2 犯行に至る経緯及び犯行状況等

1. 被告人は、高校卒業後、漁師をする傍ら、剣道に励んでおり、剣道3段を取得している。
2. 被告人は、平成23年4月13日午後3時半ころ、剣道の素振りをするために、自宅から木刀を持って下関市彦島^{ひこしま}に所在する巖流島^{がなりゆうじま}に向かった。被告人が持参した木刀で1時間ほど素振りを終えて一休みをしていた同日午後5時ころ、被告人は、被害者佐々木小次郎がピンクのポロシャツを着て、親密な様子で女性と浜辺を歩いているのを発見した。佐々木小次郎は、被告人とは高校時代の同級生であり、高校卒業後、有名国立大学である東京のT大学に入学していたが、事件当時、大学が休みのため里帰りしていた。被告人は、佐々木小次郎が連れている女性が、同年3月まで被告人と交際していた宮澤徹子であることに気がついた。

被告人は、高校のとき自分より弱かった佐々木小次郎が、偏差値の高いT大学に入学したことからかねてよりねたみを抱いていたところ、ピンクのポロシャツなんか着て、先月まで真剣に交際していた元彼女を連れてデートしているのを見て、佐々木小次郎が彼女を奪ったものと考え激昂^{げっこう}した。そこで、被告人は、同日午後5時10分ころ、被告人が素振り用に使っていた木刀を持って佐々木小次郎のいるところまで走り寄り、「チェストー」といいながら佐々木小次郎の頭部目がけて木刀を振り下ろした。佐々木小次郎は右手をあげて木刀を避けたため佐々木小次郎の右手

首を強打した。そして木刀の勢いは止まらず、そのまま佐々木小次郎の頭部にも当たった。かかる行為により佐々木小次郎は右手首複雑骨折、頭部裂傷の傷害を負った。被告人は、佐々木小次郎に対し、なおも攻撃を加えようとしたため、佐々木小次郎は逃走し、被告人は佐々木小次郎を追跡した。

同日午後5時15分頃、被告人は佐々木小次郎を棧橋に停泊する小型漁船「関夕三郎」の甲板まで追い詰めた。そして、被告人は「話せばわかる」という佐々木小次郎に対し、さらに打ちかかろうと木刀を振りかぶった。しかし、船が大きく揺れたことにより被告人はバランスを崩し、船から転落したため暴行が終了したものである。

第3 情状その他関連事項

以上